



第46回

子規顕彰小中高 校生俳句大会

第46回子規顕彰小中高校生俳句大会の表彰式が、平成23年11月23日に子規記念博物館で開催されました。8,910句の応募の中から選ばれた、グランプリ4句を含む特選130句を紹介します。○は複数の選者に選ばれた句です。(敬称略)

小学校 1〜3年生の部



笠原 慶紀 (清水小1年)

夏休みに野間馬ハイランドへ行きました。とても暑い日で、僕は喉がカラカラになって、ジュースを飲みました。見てみたら、野間馬もとても暑そうにしていた。ペロを出して塩をなめていました。初めて見たのでびっくりして、心に残りました。グランプリに選ばれて、とてもうれしかったです。

のまうまが
しおをなめてた
もうしよのひ

青野 郁恵 選

庭プールしばふに光る水の玉
谷川 美来(東雲3)
○のまうまがしおをなめてたもうしよのひ
笠原 慶紀(清水1)
いつまでもいとこ見送る夏の風
田中 雄大(素鷲3)
きたかぜにまけるなほくのなわの音
田上 晴登(垣生2)

グランプリ

夏祭り町ふくらんでくるよかん
篠森 凜(味生3)
六月のはなよめさんはぼくのあね
坂本 匠(垣生2)
一人べやはじめてねむる秋の夜
山岡 梨菜(垣生3)
あめあがりやまよりおおきなにじがでた
曾我 柚香(石井1)
男三人でカレーを作る星月夜
岩崎 浩之(北久米3)
打じゅんきて打てや打てやとせみが鳴く
山田 翔平(東雲3)

矢野 裕司 選

逆上がり夏雲けつて一回転
大石 健登(宮前5)
妹の育てたきゅうりへそまがり
伊藤 一秀(桑原6)
「さびしいわい」祖母待つ里は
雪予ほう 山西 千尋(久米5)
夏の夜はあばとさがすじいじ星
三谷 のどか(石井4)
「また君か」皿のゴージャにひとりと合田 晟祥(みどり6)

中学校の部

好物の
桃も無視する
反抗期



宇佐 英香 (愛光中1年)

入学当初、慣れない通学を気遣って駅まで一緒に来てくれた大好きな母。でもささいなことでもけんかをしてしまいました。母は私の気持ちをくんで私の大好きな桃をむいてくれましたが、反抗期真っただ中の私は、食べることも、謝ることもできず、素直になれませんでした。そんな後悔を伴ったほろ苦い思い出の句なので、受賞を聞いて驚くとともに気恥すかしくなりました。

グランプリ

好物の桃も無視する反抗期
宇佐 英香(愛光1)
夏終わる涙とうつつわくホイッスル
戸田 竜平(垣生3)
山百合が楚々とむかえる母の里
山下 彩也香(雄新3)
京旅行母のきおくの宇治水
田中 和真(南第二1)
夏終わるユニフォーム返す朝の道
中矢 成洋(垣生3)
曼珠沙華棚田ぐるりと守りおり
藪 弦一郎(済美平成1)
白紙置く「進路決める」と稲光り
兼頭 里奈(南第二3)

小学校 4〜6年生の部

きゅうりがねドーナツみたいにくるりんこ
萩山 優衣(和気2)
しゃぼんだまきゅうみたいにういている
吉田 琴音(福音1)

小学校 4〜6年生の部



長尾 美都里 (附属小5年)

近所の家の棟上げ式の時、一番高い柱に登り大きな声で指示している人がいました。母に尋ねると、その人は大工の棟梁だと教えてくれました。棟梁が「もっと右だ」「こっちはこっちだ」と手を上げるとクレーン車でつるされた大木がゆっくり運ばれ、その向こうに見える夏空には真っ白い入道雲がありました。この句は、その様子を思い出して作ったものです。

棟梁の
声高らかに
雲の峰

グランプリ

せんぶうきしゆくたいとばす三まいも
岡直(久米3)
とべやきの中はみずいる夏の空
赤松 拓海(附属3)
ばあちゃんのもやげ治れと手をつなぐ
仲岡 葵聖(垣生3)
ランドセルだっこしてねるはるやすみ
松本 望吾(双葉1)
かぶりつくすいかに菌がたまた菌がた
松原 里奈(双葉3)
ようきたのうじいちゃんわらってあせをふく
濱崎 優也(窪田1)
温度計夏の間はノッポさん
山内 志織(番町3)
うなぎ食べかみかみの前で力こぶ
喜喜場 雄吾(清水2)
春の草はあちゃんねのねをたっこする
大原 大志(雄郡3)
蘭梁の声高らかに雲の峰
長尾 美都里(附属5)
犬小屋にバラソル立ててかげつくり
陸野 彩希(堀江5)
夕立が松山城を丸洗い
三好 龍臣(桑原5)
雨の日もせみとりかた手にかきを持ち
大西 凌(石井東4)
秋暗れやバットにグローブさしていく
橘 翔太(双葉4)
○手をつなぐ約束わすれたきもだめし
小島 萌(道後5)
あめんぼにプール開きを先こさ
れ
西山 綺竜(北久米4)
○棟梁の声高らかに雲の峰
長尾 美都里(附属5)
○手をひいて祖父の歩はばで盆参り
藤本 美乃里(味酒5)
○逆上がり夏雲けつて一回転
大石 健登(宮前5)
帰り道菜の花見つけた見つけ
藤原 寧暉(河野4)
歓声にたじろぎもせずセミの声
森 悠太郎(さくら6)
○さくらまう今日の散歩は遠まわり
大西 里佳(和気6)
友と行く虹のはじまり探す旅
池田 信乃(清水5)

谷井 紀夫 選

茨木 里子 選

矢野 三佳里 選

むくろを見夏の終わりを寂ひる朝
東 広大(愛光1)
初夏の朝地球の空気にひたりけり
石崎 祐平(雄新1)
かき氷ピカソのような味がする
宮本 朱理(久米2)
名月やカーブミラーをのぞきけり
灘野 星(西3)
向日葵やぐんぐん伸びて空掴む
矢野 穂華(北条北2)
合奏の休符を埋める蝉の声
山本 瑠子(鴨川2)
土濡りふわり微笑む野バラかな
轟 萌可(道後3)
しおかせと駅をかぞえて帰省する
伊藤 啓大(附属1)
そつと見る肩にとまった甲虫
白方 萌花(東西1)
蝉時雨人なき寺の昼下がり
松岡 俊希(東西2)
梅雨の空捨てた手紙を開けてみる
大成 千咲(北条南3)
庭仕事母の頭に子カマキリ
久米川 薫子(湯山1)
父宛の絵手紙に書く夏みかん
菅野 真由(雄新2)
えさ三つぶ金魚の口角上がりけり
今城 葵(南第二3)
校舎から後輩たちの夏を見る
笹田 実季(桑原3)

宮崎 恭子 選

柴川 智恵子 選

高等学校の部

向日葵や
少年ダッシュ
繰り返す



小西 彩加 (松山中央高3年)

夏休みに弟がテニスの練習をしている様子を見た時、向日葵に向かって何度もダッシュを繰り返す姿が、テニスを始めた頃と比べ、すいぶん成長しているように感じました。この句は、そのような弟を詠んだ句です。グランプリを受賞することは、小学生の時にこの大会に入選してからの夢でした。大変うれしく誇りに思います。ありがとうございました。

グランプリ

好物の桃も無視する反抗期
宇佐 英香(愛光1)
夏終わる涙とうつつわくホイッスル
戸田 竜平(垣生3)
山百合が楚々とむかえる母の里
山下 彩也香(雄新3)
京旅行母のきおくの宇治水
田中 和真(南第二1)
夏終わるユニフォーム返す朝の道
中矢 成洋(垣生3)
曼珠沙華棚田ぐるりと守りおり
藪 弦一郎(済美平成1)
白紙置く「進路決める」と稲光り
兼頭 里奈(南第二3)
校舎から後輩たちの夏を見る
笹田 実季(桑原3)
きゅうりがねドーナツみたいにくるりんこ
萩山 優衣(和気2)
しゃぼんだまきゅうみたいにういている
吉田 琴音(福音1)
かまきりがごくりとのむよみずたまり
武田 尚(福音1)
ふうりんは風の気持ちも教えてる
程野 結衣(双葉3)
金魚鉢洗って出かける夜市かな
仙波 憲汰(三津浜5)
○手をつなぐ約束わすれたきもだめし
小島 萌(道後5)
せん風機姉とほよせ仲直り
松本 卓磨(味生6)
また行こやばあちゃんいっしょの夏の旅
岡田 結(粟井5)
○さくらまう今日の散歩は遠まわり
大西 里佳(和気6)
○手をひいて祖父の歩はばで盆参り
藤本 美乃里(味酒5)
ぼくがとつたサラダのてつべんブチトマト
上田 涼(湯山4)
肩倒立足が上がった夏の空
西原 れいな(味生第二5)
いつのまに蚊にさされたかつぶ三個
森田 智也(素鷲6)
夏祭り「あの子もいるかな」鏡見る
一柳 侑里(正岡5)
スーパーで青梅見たらきゅつとなる
木村 心(雄郡6)
初対面音合わせする蝉二ひき
藤本 友惟(双葉6)
せみしぐれしんちゃんしんしてやと母の声
森貞 智太(附属5)

阪本 謙二 選

相原 左義長 選

お問合わせは、(敬)子規記念博物館 ☎9315566 FAX 934116